

平成27年（2015年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,979万1千頭
（犬：991万7千頭、猫：987万4千頭）

猫の飼育頭数は横ばいであるが、犬の飼育頭数は減少傾向。一方、現在犬猫を飼っている人たちにとってペットは、「生活に喜びを与えてくれる大切な存在」、「健康面や精神面及び人と人とをつなぐコミュニケーションにおいても重要な存在」などの効用があることが明らかになった。

ペットフードの事業者を中心とした99社（正会員62社、賛助会員37社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、平成27年（2015年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。主な結果は次の通りです。

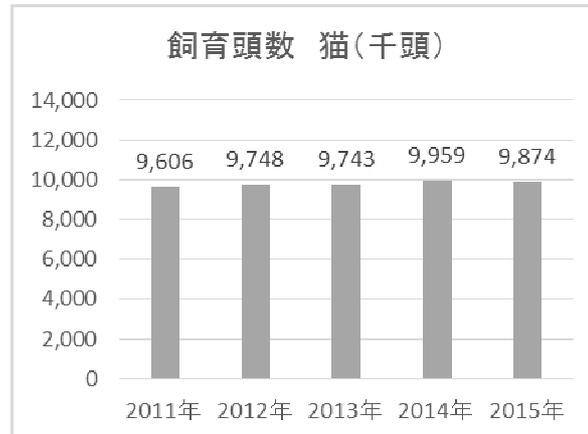
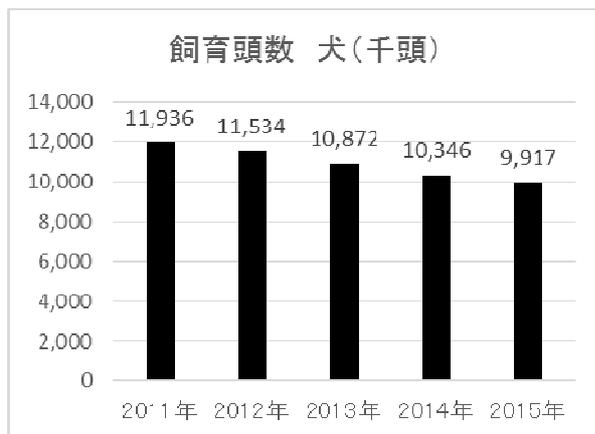
1. 平成27年度 全国犬・猫 推計飼育頭数

全国の推計飼育頭数 犬：991万7千頭、猫：987万4千頭。

時系列でみると、猫の頭数は昨年とほぼ同じ、犬の頭数は減少傾向にあります。

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	55,364.2	14.42%	7,985	1.24	9,917
<猫>	55,364.2	10.09%	5,588	1.77	9,874

尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



2. 平成27年 犬猫の年代別現在飼育状況

年代別での飼育状況をみると、50才代での犬及び猫の飼育率が最も高く、次いで60才代となっています。また70才代での犬及び猫の飼育率が最も低い結果となりました。

() は今年の数字

	犬	猫
20代	14.1% (14.3%)	9.2% (9.7%)
30代	12.2% (12.4%)	8.9% (9.0%)
40代	12.9% (13.9%)	9.8% (9.4%)
50代	17.5% (18.2%)	11.5% (11.6%)
60代	15.6% (16.5%)	10.9% (11.0%)
70代	10.7% (10.3%)	7.0% (7.6%)

3. 平成27年 犬・猫平均寿命

犬全体の平均寿命は14.85歳(昨年14.17歳)、猫全体の平均寿命は15.75歳(昨年14.82歳)でした。犬は、超小型犬、小型犬の寿命が長くまた、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.40歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は14.22歳と寿命に大きな差ありました。犬も猫も、寿命が延びてきていることがわかります。

4. 平成27年及び平成26年の 飼育意向率

今後の飼育意向は、犬が23.2%、猫が16.0%で、犬は減少、猫は増加となりました。飼育意向のある方々が犬を飼育できるような環境の整備やサービスの向上が将来に向けての飼育頭数拡大に必要といえます。

	犬	猫
平成27年度飼育意向率	23.2%	16.0%
平成26年度飼育意向率	23.6%	15.6%

5. 平成27年 ペットを飼う効用

犬又は猫の飼育者はペットを飼う前と比べて、情緒面、コミュニケーション、健康など、様々な効用があることが明らかになりました。

16歳未満の子供の場合

－心豊かに育っている	60.7%
－生命の大切さをより理解するようになった	59.4%
－家族とのコミュニケーションが豊かになった	53.1%

高齢者の場合

－情緒が安定するようになった	45.0%
－寂しがることが少なくなった	44.4%
－ストレスを抱えないようになった	37.8%

夫婦関係の場合

－夫婦の会話が多くなった	57.4%
－夫婦の関係がなごやかになった	45.2%
－夫婦で過ごす時間が多くなった	35.6%

自分自身の場合

－生活に潤いや安らぎを実感できるようになった	56.5%
－孤独感を感じなくなった	54.3%
－ハリのある生活が送れるようになった	41.8%

6. 平成27年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて「阻害要因」、「あったらいいと思う飼育サービス」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因

1. 集合住宅に住んでいて禁止されている	26.0%
2. 十分に世話ができない	25.8%
3. 別れが辛い	24.3%
4. お金がかかる	23.3%
5. 死ぬとかわいそう	22.6%

あったらいいと思う飼育サービス

1. 旅行中や外出中の世話代行サービス	41.7%
2. 健康保険料、生命保険料などが減額になるサービス	29.2%
3. 飼育が不可能な場合の引き取り斡旋サービス	28.5%
4. 高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス	26.7%
5. しつけ代行サービス	16.5%

飼育のきっかけ

犬

1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	30.7%
2. 以前飼っていたペットが亡くなったから	26.8%
3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから	17.0%

猫

1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	29.6%
2. 以前飼っていたペットが亡くなったから	23.7%
3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから	13.0%

7. 平成27年 ペットフードのタイプ別利用率（複数回答）

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が9割近くあり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、犬、猫ともに「おやつ」をあげる人が増えてきています。

（ ）は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫（外猫を除く）
市販のドライタイプ	85.0%（86.0%）	92.0%（91.5%）
市販のウェットタイプ	24.4%（23.3%）	48.4%（48.2%）
市販の半生タイプ	17.5%（16.3%）	13.4%（11.8%）
市販のおやつ	35.9%（33.8%）	25.3%（21.6%）
ペット用療法食	6.6%（6.2%）	8.9%（9.4%）
手作りのペット用食事	13.7%（12.9%）	3.9%（3.4%）
人間の食事の残り	7.7%（8.8%）	4.2%（4.6%）
その他	3.0%（3.0%）	3.0%（3.0%）

8. 平成27年 1ヶ月当たり支出総額

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。（ ）は去年の数字

犬に関する支出総額（医療費等含む） ￥7,841（￥7,090）

猫に関する支出総額（医療費等含む） ￥5,087（￥5,106）

以上